

テーマ 近代日本における自立的地域文化創生事業の研究—滋賀県長浜市江北図書館の事例に即して—

1. 研究の目的

本研究の目的は、明治 30 年代から今日まで 1 世紀を超えて、自立的な図書館運営を行って地域社会に文化・学術・教養の灯を供給し続けてきた滋賀県長浜市の江北図書館の多面的な事業を検証し、近代日本における自立的文化創生事業の特徴を解明することである。具体的には、創立以来一貫して自立的になされた図書館経営の実態と収集・保管・活用に供された図書資料の内容を検証し、それらが地方文化の創生に如何に寄与してきたのかを明らかにしたい。また保管されている旧郡役所史料や自立的な救恤組織たる伊香相救社史料を調査し、地域における郡役所の教育・勤業等の政策展開と災害・貧窮等に住民が如何に対応してきたのかを解明したい。総じて、明治期から今日に至る自立自助の精神による地域文化創生の具体的事例を明らかにしたい。

2. 研究の特色

昨今「地域創生」が叫ばれるが、それは地域経済に限られることなく、地域文化全般を住民が自らの手で創出する途を探し出すことが肝要であると思われる。そのためには、明治以降の近代化過程を根底で支えていた地域社会が自主的に文化を創出し、教育や勤業を推進し、罹災者や貧窮者に救恤の策を講じてきた歩みを明らかにし、先人の知恵に学んで地域社会の新たな創出を図っていくことが重要であろう。

その好事例として本研究は、これまでほとんど解明されてこなかった民間による自主的図書館運営の実態に迫ろうとするものである。研究対象である滋賀県長浜市の江北図書館は、長年にわたる自立的図書館経営と地域文化創出の功績によって 2013 年サントリー地域文化賞を賜った。しかしながら、施設の老朽化はいかんともしがたく、翌 2014 年には滋賀大学の総合研究棟〈士魂商才館〉に使用貸借契約を以て貴重史資料が保管されることとなった。

そうした経緯を踏まえ、江北図書館の館長以下評議員と滋賀大学経済経営研究所のスタッフ、さらに以前より滋賀県内の図書館運営や地域文化振興に携わってきた研究者が集まり、上に述べたテーマを掲げて共同研究を組織した次第である。

だが、江北図書館と滋賀大学双方とも通常業務が優先されるため、共同研究の必要経費を

十分に捻出することが困難であり、本研究費の申請を行った次第である。

この研究は、日本の近代化が国家による強大な指導のみによるものではなく、地域社会の自立的文化・教養・学術の創出と運営によるものであったかを明らかにするものであり、また今喫緊の課題となっている自然災害への地域社会での対応如何という問題についても、優れた歴史的教訓を示してくれるものであり、貴重な成果が期待できる。

3.これまでの研究の実施状況

これまで、江北図書館に保管されている貴重史料を改めて整理し、その詳細な目録作成を行ってきた。また特に貴重な史資料については、その一部を写真撮影し、滋賀大学経済経営研究所においてデジタル公開を行って研究のための条件を整える作業を行ってきた。また伊香相救社に関しても、簡易目録作成や史料撮影、さらにそれら史料調査の報告会等を実施してきた。

本研究会に参加する共同研究者は、滋賀県内の自治体史編纂に従事し、近代の地方文化の形成過程を研究し、また地方自治体の図書館運営に従事して住民に優れた図書情報を広く効率的に提供する業務を実践してきた。こうした江北図書館資料のこれまでの整理並びに調査活動と地域における研究・文化創造活動を前提として、いよいよ本格的な共同研究に着手する次第である。